第２回佐倉市地域福祉計画推進委員会　議事録

開催日時	令和３年７月１３日（火）　午前１０時００分～１２時００分
開催場所	佐倉市役所社会福祉センター３階中会議室
出席者	石原　茂樹委員、宇田川　光三委員、内川　浩明委員、川根　紀夫委員、郷　有紀委員、小林　眞智子委員、住吉　アキ子委員、西廣　直子委員、深沢　孝志委員
欠席者	なし
事務局	大谷誠一（社会福祉課長）、下地正史（社会福祉課管理班長）、菅沼京子（社会福祉課地域福祉班長）、橋口庄二（社会福祉課主査補）、村石祐一（社会福祉課主査補）、杉山拓巳（社会福祉課主任主事）
議　題	１．議事 （１）第４次地域福祉計画・第１回（令和２年１０月）推進委員会以降の取組について（市民意識調査結果（成果指標）を含む） （２）地域福祉フォーラムについて（※包括的な支援体制の整備の検討を含む）
配布資料	資料１　第４次地域福祉計画 ・第１回（令和２年１０月）推進委員会以降の取組について 資料２　第４次地域福祉計画　こうほう佐倉掲載記事 資料３　令和２年度市民意識調査結果（報告書の確定版から） 資料４　地域福祉フォーラム（実施要領・プログラム（案）） 資料５　改正社会福祉法に関する資料（厚生労働省資料などから作成） 資料５別冊　「地域共生社会の実現に向けた地域福祉の推進について」の改正について（国通知・令和３年３月３１日） 資料６　相談機関・アンケート調査結果
傍聴人	１名

開会に先立ち、丸島正彦福祉部長が体調不良により欠席の旨、事務局から説明。

１．開　会

今回の議事録確認者は、小林会長と内川副会長の２名であることが確認された。

※　事前に、社会福祉法人佐倉市社会福祉協議会（市社協）の事務局長でもある深沢委員から、令和３年３月に市社協が策定した「ともに歩むふくしプラン４（第６次佐倉市地域福祉活動計画）」について紹介したい旨の申出があったことから、議事に入る前に、同委員による計画紹介の時間を設けた（①「第２０３号　社協さくら　２０２１年７月１日」・②「社協さくら地域福祉活動計画特集号　ともに歩むふくしプラン４保存版」・③「ともに歩むふくしプラン４

（第６次佐倉市地域福祉活動計画）」に基づき紹介）。

その中で、モデル圏域（志津南部圏域）を定めて令和３年度から取組を始めた、地域福祉コーディネーターに関する説明もあった。

２．議事

（１）第４次地域福祉計画・第１回（令和２年１０月）推進委員会以降の取組について（市民意識調査結果（成果指標）を含む）

【資料１】から【資料３】に基づいて、事務局から一括して説明を行った。

○意見、質疑等

【会長】

事務局から、第１回推進委員会以降の取組について、説明がありました。

ただいまの説明に対して、ご意見、ご質問などございますか。

皆さんに資料は事前送付されていて、読んで来られていると思う。また、会議の間隔が空いていて、皆さんの声を聞いていないので、一言ずつお聞きしたいと思う。

【委員】

疑問に思ったことを聞かせていただきたい。

①資料１のＰ３、Ｗｅｅｋｌｙさくら（市の広報番組）の視聴者数を把握しているか。

②資料１のＰ５、真ん中より下、「Ｐ４…」から始まるところで、「断らない相談支援」というのが分からなかった。相談支援に行って、断ることがあるのだろうかと、疑問に思った。

③資料１のＰ６、「８．」の２番目の○、「相談窓口等の連携状況や相談（支援）業務に関するご意見等を把握し、…」とあるが、どういったものがあったのか気になった。どういったことを把握したのか。

④資料１のＰ６、「８．」の４番目の○、２段落目の２行目、「ＮＰＯ法人等を社員として」という意味が分からなかったので、教えていただきたい。

⑤資料１のＰ６、「８．」の５番目の○、地域福祉フォーラムの開催で、調布市社協と連携されるということだが、どうして調布市社協なのかというところを教えていただければと思う。

⑥資料１のＰ７、一番上、「福祉サービスの利用を促進します」という基本目標２に対して、指標（説明）として、個別計画等の取組とあるが、「利用を促進する」というのは、すでに利用している人の利用をさらに高めるのか、それとも、まだ何も福祉サービスを利用していない人の利用を促進するのかがちょっと分からなかった。指標だと、すでに利用している人のことなのかなと感じた。

【会長】
　複数の質問があったが、まず、①～⑤までをまとめて事務局に回答をお願いしたい。

【事務局】
　①のＷｅｅｋｌｙさくら（市の広報番組）の視聴者数については、すぐに分からないので、確認して、後ほど回答する。
　②の断らない相談支援は、もともと国の表現で、今、こういう表現ではない部分もあるが、総合相談窓口のようなものを意識していて、どのような相談が来ても対応できるようにという意味。必ず断らないという意味ではなく、対象外の分野として断ることのない体制にという意味合いで理解している。分野を問わない、属性を問わない、先ほど、地域福祉コーディネーターは高齢者に限らないということだったが、国は、今は「属性を問わない」という言い方、意味合いになっていると思う。
　③については、分かりづらいと思うが、議事２、資料６のほうで事務局のほうで概要をまとめているので、あとで説明をさせていただきたい。
　④の「ＮＰＯ法人等を社員として」についてはては、すぐに手元の資料が出てこないので、後ほど回答させていただきたい。
　⑤については、地域福祉フォーラムの第２部において、「地域福祉コーディネーターに期待すること」をテーマとし、モデルで始めた市社協に報告をしてもらうが、他に、先進的に行っているところがどこかないか話をする中で、調布市では、生活支援コーディネーターと地域福祉コーディネーターそれぞれ調布市社協が委託などでされているが、兼務はしていない。それぞれに人がいるという状況で、調布市では８名の地域福祉コーディネーターが活動されているが、今後、市社協が進めていく中で、参考になる部分があるということで、他にも候補はあったが、調布市社協にお話をしていただくということになった。

【会長】
　あと１つ。⑥資料１のＰ７で、「【基本目標２】福祉サービスの利用を促進します」、指標の説明も書いているが、対象はすでに利用している方なのか、新たに利用する方なのかというところを教えてもらいたいという質問。

【事務局】
　第４次地域福祉計画のほうでは対象をはっきりと書いていないが、今、利用している方、新たに利用する方と広く捉えているというかたち。計画で（Ｐ３４）、基本目標２の冒頭に書かせてもらっているのは、「介護…などによ

り、日常の生活が困難になることがあります。自分らしく自立した生活を送るために、福祉サービスの利用を促進し、必要な支援を提供する必要があります。」と書かせていただいているので、どちらもという意味で、事務局としては捉えている。

【事務局】

補足をさせていただく。回答を保留していた、①のＷｅｅｋｌｙさくら（市の広報番組）の視聴者数について広報課に確認したが、平成３０年度においては、市民の中で４７．３％、令和元年度においては、４７．２％の方に視聴してもらっているということだった。

【会長】

５０％近くあるということ。その他に、資料を読んで、質問、少し気になるところなど、意見でもいいので。一言ずつお願いする。

【委員】

市の第４次地域福祉計画、市社協の第６次地域福祉活動計画、スタートが１年違いだったこともあり、市と市社協のこの種の取組の中で、いろいろと齟齬があったし、連携の取れないところもあった。しかし、最近は、特に今回、よく見ると、事務方の努力もあると思うが、かなりうまくいっているなと感じている。

そういう中で、市社協が考えている、地域福祉コーディネーター、これを絵に描いた餅にしないためには、市社協だけではなく、市も、地域の自治会や民生委員も、よほど努力しないと、うまくいかない。

地域福祉フォーラムを計画しているが、これもそういう視点で考えていかないと、うまくいかないと思っている。

読んでいていつも感心しているが、今、言った、市と市社協ともうまくやっていくためには、市社協の第６次地域福祉活動計画の中で、冒頭の、ともに歩むふくしプランⅢ推進委員会委員長の挨拶が言い当てているなと思った。長くなるが読み上げる。

真ん中より下のところに、「しかし、市社協・地区社協による住民参加の地域福祉活動とそれを体系化したプランの存在はまだまだ知られていません。私たち自身がさらに力強くアピールして、ひとりでも多くの方の理解と参加を促す努力が必要です。プランの推進を通じて『知って欲しい、そして一緒に！』と伝え続けていかなければなりません。

このプランを手にしてくださった方は、ぜひ最後まで目を通してみてください。このまちにどんな課題があって、その解決のために驚くほど多くの方々が活動していることを知って欲しいのです。そしてこれから、この佐倉

市を住民同士が支えあいながら、気にかけあいながら暮らせるすてきなまちにしていくために、あなたの力を貸してください。」ということで、これは市のほうも市社協のほうも、まさに言い当てていると思うので、是非、この気持ちを大事にして、市社協のほうにも、絵に描いた餅にならないように、是非、頑張っていただきたいと思う。

【会長】
市の計画と市社協の行動計画の連携が取れてきた。

【委員】
資料１のＰ７、事務局の説明にもあったが、佐倉市ボランティアセンター登録人数がここのところ減っている。コロナ禍の影響は確かにあるが、近年の状況を見ると、減少傾向にずっとあるのは確か。１つにはご存じのように佐倉市はかなり高齢化。私の住んでいる市はまだ高齢化率が２０％ぐらい。如実に出ている。例えば、先ほどともに歩むふくしプラン４で紹介した、楡の会（代表が表紙の絵を描いた）はメンバーがなかなか変わらずに、みんな７０代、８０代になってしまい、楡の会はまだやっているが、もうそろそろ役割を終えたということで、終了している方がいる。実はそういう方が最近多く、グループも減っているし、登録者数も減っている。この傾向は、地区社協を構成する福祉委員や、聞くと自治会の構成員など、全て連動してきている。
これからの地域福祉やまちづくりを考えていくときに、現役世代、若い世代、世代を超えて、いろいろな人が立場を超えて、活躍できる場を模索していく。また、増えていく高齢の方たちが、活動できる場所や活動内容を提案していく。世代を超えて、串刺しにして、動けるようなことを模索していかないと、なかなか全体としての数値、量的に増えていかないだろうと、改めて数値を見て感じている。ともに歩むふくしプラン４の推進の大きな目的としては、仲間を増やしていく、誰をどう増やしていくかというところになってきて、市のほうの計画と同じことだと思うので、改めてその点をしっかりと考えていかないといけないと思った。

【会長】
個人ボランティア登録者数が２８０人から１９７人になってしまっている（令和２年度）。

【委員】
若干活動のない方の登録もあったので、少し整理をした部分もある。

【会長】
　高齢化もあるが、元気な高齢者を取り込んでいく。

【委員】
　４、５年前に比べると、委員も言っていたが、市の地域福祉計画と市社協の地域福祉活動計画、だいぶ近いものというか、一体的に運用できるようになってきたと感じられていて、市民の方の意識も、だいぶ興味を持ってきたというか、そういうことがアンケートから見受けられると思う。
　ボランティアについては、施設のほうも大打撃であり、私のところは年に１，５００人ぐらい来てもらえていたが（延べ人数。１人の人が２回来てくれれば、２人と計算）、昨年度は０。一切コロナで受け入れできなかった。そういった意味からすると、つなぐという部分は部分的には後退している。今後、コロナが終われば、復活できるのではと思っている。
　もう１点、別な話だが、資料３の市民意識調査の中の自由意見で、窓口には適切につなぐ総合力が必要という厳しい意見もあり、これは地域包括支援センターにも言えることで、自分自身も実感していること。国、県の研修もたくさんあるが、経験と知識、能力と一体となって備わっていないと、先ほどの断らない相談ではないが、そういったことにはなかなか、総合力として対応できない。厳しいことを言えば、そういう感じはしている。
　今後、庁内の連携も行政でやっていただいているようだが、なかなか担当以外だと、専門的な部分もあり、その分野に入っていくのは難しい部分もあるが、概略的には理解していただいて、地域として、福祉をどう作っていくかということを考えていただければというのが私の今の考え。

【会長】
　相談窓口の件は、市民意識調査で、たくさん自由意見をいただいている。

【委員】
　庁内の連携や市社協との定期的な会議は、ものすごくエネルギーがいるだろうと思う。きちんと継続してやってきていただいている。ただ、その中で欲しかったのは、庁内だと、地域福祉計画の中で言っていることを少し入れて、標語として持ってきているということだが、具体的に、他の行政計画の中で、地域福祉の推進にあたって、このような取組をします。例えば、介護保険であれば、高齢者が地域で生きていくために、何が必要だと考えているなど、そういった具体的なものが何かあれば、教えていただけないかなというように思った（意見）。
　それから、地域福祉活動計画に関しては、地域福祉コーディネーターはとても大事な役割だと思うが、コーディネーターが目立つと地域の力が弱くな

ってしまうこともあると思う。例えば、先ほどの、お年寄りに代わってワクチン接種の予約をしますというときに、志津南地区社協が頑張っているところは、全面に出てくるのは志津南地区社協で、コーディネーターではない。コーディネーターは地域にいる人たちを目立たせるのが仕事なのだろうと思うので、先ほど委員が言っていたように、経験など様々なものが必要になってくる要素なのだろうと思う。そういうことを大事にしながら、地域で頑張っている人が全面に出る、あとは縁の下の力持ちで、動いていく人たちがいる。縁の下の力持ちほど力がいる。財源的にも考えないといけないのではないかなという気がした。

【委員】

今までの話で、私の言いたいことは全てお話いただいたのではないか。先ほどの委員の話でも、地域福祉計画と地域福祉活動計画が、かなり歩み寄ってきているのではないかということを言われた。私はこの会議２回目だが、中身を読んで、私自身もすごく感じている。私は途中まで地域福祉計画に関わっていたが、そのときは、どうも行政のほうの地域福祉計画は、上の理念計画としてやっていこうとしていて、なかなか実務計画のレベルまで、その部分は市社協の活動計画に任せようというのが垣間見えたと感じていた時期もあった。しかしながら、今、かなり近づいてきていて、職員が相互に会議を持って、いろいろな課題に関し、努力して、もしかしたら、歩み寄っているのではないかと本当に感じた。

また、先ほど、ともに歩むふくしプラン４から、推進委員会委員長の挨拶を出してもらったが、委員長は佐倉市ボランティア連絡協議会の前会長、今年から会長は私に変わった。この挨拶を見て、何人もの方から、この挨拶はとてもいいという意見をいただいていて、また、今、委員の意見も聞いて、もう一回、お伝えせねばならないと思った。

私は今回のともに歩むふくしプラン４に関し、目玉として、地域福祉コーディネーターはとてもいい制度、配置だと思っている。初めて、このような計画に携わるようになった頃から、地域に、地域福祉コーディネーターなる意味合いを持った方が必要なのだなとは個人的にずっと感じていた。今、このときになって、入れてもらったのはとてもいいことだなと。ただ、総合相談窓口という話があったが、かつては、ワンストップサービスという言葉で話していた時期があったと思う。これがなかなか事例的に、障害者総合支援協議会の啓発・権利擁護部会というところにも顔を出させてもらっているが、今度のワクチン接種に関して、基礎疾患のある、知的障害のあるお子さんに関し、多動で、なかなかすんなりとその方が医師にかかるのが難しい、きちんと医師にかかれない。そういうお子さんを育てている方にすれば、どこでそれを、例えば、在宅に来てやってもらうのがいいのかというところも、

いろいろな部署をたらい回しにされて、結局、啓発・権利擁護部会の中で、個人的相談の会になってしまった。これはおかしいのではないか。その前に、しかるべきどこかの機関で、想いを受け止めてあげて、その方たちで回してあげるのが筋ではないかと思っている。なかなかそういうところが実務のところまで、実務レベルまで機能していないというところが分かった。障害者に対する合理的配慮がなされない状況が、まだ続いているところを目の当たりにした。

地域福祉コーディネーターと地域包括ケアシステムの中にある、生活支援コーディネーターの連携がもう少しきちんと計画の中で、ともに歩むふくしプラン４の中にもあり（Ｐ４５）、「地域づくり」という中で書いているが、これが外部に向かって、市の生活支援コーディネーターと連携が強力に取れるように、それを書き込んでいただかないと、なかなかつながらない。個人的には、コーディネーター自身がつながったとしても、システム上、きちんと書かれていないと、きちんと機能を果たせないのではないかと、今回すごく感じた。

もう一つは、ともに歩むふくしプラン４には、音声コード「Ｕｎｉ－ｖｏｉｃｅ」が印刷されている話があったが、市の次期計画には、入れ込んでいただきたい。この「Ｕｎｉ－ｖｏｉｃｅ」は、日本語に訳する部分のアプリは無料なので、コードを入れていただいても、印刷費に影響があるかなというぐらいで、できたらそのあたりの部分はお願いしたいと思った。

【会長】

生活支援コーディネーターと地域福祉コーディネーターの連携ということで、先ほども話があった。

【委員】

２点。１つは、コロナ禍の中での意識の変化。これを何かで取り上げて、アンケート調査でも、普通の年度の調査とは違うと思う。どうコメントするか難しいが、地域福祉活動をしていたり、何かの観点で、コメントがあると、少しは見るほうでも影響を受けて、してくれたのだなと。あまり変化がなければいいが、落ち込んだりしているというときには、１つ説得材料かなと感じている。

２つ目は、地域福祉コーディネーターの件。立ち上げるということが大切なことで、勇気を持って、初めの一歩を踏み出してもらったことは称賛に値する。大変なことだと思う。問題はどう続けていくか。先ほどもあったように、組織を広めていくとなると、今度はぶれる。いろいろな人、組織の想いが、行政、市社協、予算が絡んでくる部分、そうではない部分、ＮＰＯ、こういう人たちが１つのアドバルーンを決めて、年度ごとに役割をどうする

か、１年目にこういうことを、２年目にこういうことを、ということを見える化していくべきと考える。動いているというのが大事。消滅するのは残念。続けていくことは大変だが、組織を巻き込みながら動いていくというのが大事かなと思う。

【会長】
皆さん、地域福祉コーディネーターには期待をしている。続けていくことをお願いしたい。

【委員】
市民意識調査の調査方法、郵送配布で、返信用封筒が入っていて、ポストに入れるという方法で、４，０００件配布して、１，４８６件の回収数で、回収率３７．２％。約４０％として、市民の半数以下の回答しか返ってきていない状況で、郵送がいい人もいるかもしれないが、オンラインで気軽に、市のホームページから回答できるなど、市民の声を拾えるように、調査の仕方自体を検討されたほうがいいのかなと率直に思った。目標値が６０％に対し、実績が５５．４％で達成に近いと言っても、それを答えている人が４０％弱で、私としては、答えていない６０％強の人は、「思わない」として答えていない状況なのかなと推測してしまい、調査方法をもう少し検討されてはと。
地域福祉コーディネーターはすごく期待している反面、意見があったが、ワクチン接種を高齢者の人がオンラインでできないから、１００人できました。それでめでたしめでたしではなく、高齢化していて、時代がオンラインなどで申込みができるようになって、オンラインで募集していますとなったときに、コーディネーターが１００人の人に教えてできましたではなく、高齢者の方がこういうサービスを自分でインターネットを使って、自分自身でできるようになっていかないと、これから高齢者がもっと増えていったときに、コーディネーターが２００人教えましたというのではなく、高齢者自身がオンラインなどを使えるように、指導、サポートをして、利用できるようになっているといいなと。期待している。

【会長】
市民意識調査の方法についても意見があったので、今後、検討していただければと思う。

【事務局】
今年度の市民意識調査から、オンラインでできるようになった。今後はその分も含めての調査結果となってくる。

先ほど保留とさせていただいた（議事録Ｐ３）、社会福祉連携推進法人について、国の資料があったので、配付させてもらった。過半数は社会福祉法人というのが求められているが、ＮＰＯ法人など複数の法人が社員として参加して、社会福祉連携推進法人を作る。この社会福祉連携推進法人自体は、一般社団法人というかたちになるが、各団体が、会費を支払い、社員として参加し、結果的には規模の大きな活動ができるというもの。詳細は資料のほうをご覧いただき、代えさせていただきたい（厚生労働省・社会福祉連携推進法人の運営の在り方等に関する検討会　とりまとめ・令和３年５月１４日・Ｐ２・「社会福祉連携推進法人について」を配付した）。

【会長】

いろいろな意見を言っていただき、ありがとうございました。議事２の説明をお願いする。

（２）地域福祉フォーラムについて（※包括的な支援体制の整備の検討を含む）

【資料４】から【資料６】に基づいて、事務局から一括して説明を行った。

○意見、質疑等

【会長】

事務局から、地域福祉フォーラム等について、説明がありました。

ただいまの説明に対して、ご意見、ご質問等ございますか。相談機関・アンケート調査結果から見えてきたものなど。フォーラムについてはどうか。

【委員】

フォーラムの開催にあたって、撮影・編集してＹｏｕＴｕｂｅとして掲載、９月が撮影ということで、今回は難しいと思うが、Ｚｏｏｍなどで、撮影を市民の方が直接見られるようになど、どんどん取り入れていかれたらいいと思った。今回のフォーラムに限ったことではなく、いろいろな講演会などを行っているものも、現地まで行くのが難しい、子どもがいるので連れて出られない方などが、家で市の行っている講演会などを見ることができるようにして欲しいと思った。

【会長】

直接、地域福祉フォーラムをＺｏｏｍのようなかたちで参加して、聴くようなかたちについて意見があったが、どうか（他にも同じ意見の委員あり）。

【事務局】

今回はこの実施要領で進めているので、次回、コロナの状況などがどのようになっているか分からないが、研究させていただければと思う。

【委員】
ミレニアムセンター佐倉で撮影を行うが、ホールの正式な定員が９０名で、今、半分しか入れない状況だと４５名。私たち委員も入れないのか。

【事務局】
今回は関係者のみで撮影を行う。

【委員】
そうなると、意見のあった、Ｚｏｏｍ。佐倉市ボランティア連絡協議会も、市社協の協力を受けて、毎月の役員会をＺｏｏｍで行っている状況。質疑応答などがある場合は、Ｚｏｏｍのほうが便利だと感じた。

【会長】
みんな同じような意見を持っている。その他、いかがか。

【委員】
地域福祉フォーラムと２つ。フォーラムの件、今回はフォーラムのかたちが、発表型。今までは活動したり、参加したり、報告したりというかたちがあり、フォーラムの定番が分からないが、みんな意識していた。活動していて、いいことをやっている。感想を含めて、実感が沸いた。今回はこのかたち。市社協の地域福祉コーディネーターには、立ち上げてみての課題、反響、件数、どのくらいあったかなどを盛り込んだ内容をお願いできると、動いているという意識がみんなに伝わるのではないかと思う。
ただ単に市民が聞いているだけではなく、私もそこに参加したい、そういう意識づけをするきっかけがフォーラムの役割と思っている。
２点目は、資料６の相談機関・アンケート調査結果、どんなことを相談するか、相談のヒントのようなものが情報の中でうまく集約されて、こういうことを思っている方が来ると相談機関は役に立つというようなＰＲ、広報を。単に文字の字面だけで、こういうことをやりますではなく、具体的なアンケートで意見があった中で、こういうことも相談に行っているというのが見えれば、このアンケート結果も役に立つ。

【会長】
次回の会議は１月か２月の予定。議事について、意見があれば。

【委員】
　フォーラムの件は、先ほど質問した。後日、ＹｏｕＴｕｂｅで拝聴させてもらう。
　相談機関・アンケート調査結果は、よくやってもらった。まとめ方がとてもよかった。連携に関して、かなり様々な設問で聞いてもらっている。全体的によかったという印象。

【会長】
　こういうアンケートをすることで、相談機関の方たちも意識ができた。

【委員】
　資料５のＰ１にフロー図が載っている。包括的な支援体制の整備と重層的支援体制整備事業はどういう関係にあるのか。また、地域福祉コーディネーターはこれに関係するのかしないのか。そのあたりを教えていただけるとありがたい。

【会長】
　資料５のＰ１、社会福祉法における地域共生社会の理念、施策、事業の位置づけの図の部分。事務局、お願いする。

【事務局】
　重層的支援体制整備事業は、法改正で社会福祉法に規定された事業であるが、必ずしなければならないということではなく、包括的な支援体制の整備をするうえで、ツールとして、使える手段として用意されているもの。仮に、重層的支援体制整備事業を自治体で行っていなかったとしても、ただちに包括的な支援体制の整備ができないというわけではなく、他の手段でそこに向かっていくことはできる。包括的な支援体制の整備は、漠然としているが、話の中で出ている、断らない相談支援、そういった概念が国のほうからも出ている。市としても、この委員会でも議論していただいているが、次期計画の策定に向けて、包括的な支援体制の整備については計画の記載事項にもなってくるので、検討していきたいと考えているところ。

【委員】
　地域福祉コーディネーターとの関係は。

【事務局】
　地域福祉コーディネーターについては、重層的支援体制整備事業の中でも、取り上げられるものになるが、調布市に話を聞いたときに、補助金で地

域福祉コーディネーターをしていたが、補助金の場合、実施主体としては調布市ではなく、調布市社協になる。調布市は重層的支援体制整備事業への移行準備事業に取り組んでいる中で、補助ではなく委託でという指導があったよう。詳細なところを把握できていないが、委託事業としている。

【委員】

聞いたのは、地域福祉コーディネーターが絵に描いた餅にならないようにという話があり、重層的支援体制整備事業は財源としての裏打ちがあると聞いている。交付金事業と聞いているので、割合は別としても、交付金という裏付けがしっかりした事業なのだと思う。地域福祉コーディネーターが絡むということであれば、今年度、試行的にスタートとしたということが、とても意味あることなのだなというように思ったので、少し具体的なことが分かればと思い、質問をさせてもらった。

【事務局】

地域福祉コーディネーターが包括的な支援体制の整備の中で、重要性があるのかということだと思うが、今回、フォーラムを市社協と一緒にやるときに、地域福祉コーディネーターをなぜ入れたかというのは、市社協の考えであるとととともに、市としても事務局レベルとしてではあるが、市の計画を進めていくうえで、コーディネーターの必要性はあるというように考えているため。

実際に、包括的な支援体制の整備を考えるのに、佐倉市の特性を分析した中で、佐倉市は形がいびつであり、人口比が東西で異なる。佐倉市と対照的な浦安市や習志野市など、市の形が丸く、市域が小さく、市の中心部に１つ総合相談を作れば全市に対応できるような状況とは違う。佐倉市がどのようにやっていくかというときには、佐倉市は連携でやっていかないと、どこかに１つというのは難しい。市役所が市の中心部ではあるが、人口は多くはない。そういう中で、行政としては専門の相談機関はあり、最終的には行政が引き受けるが、そこにつなぐ部分、地域から発信するとしたときには、佐倉市は非常に市域が広く、いびつな状況の中で、身近な意見を吸い上げるとしたときの１つの可能性として、地域福祉コーディネーターというかたち。また、地域福祉コーディネーターが全部ではなく、地域の中で相談の場所を作るというのも１つ。先ほど出たが、コーディネーターがスーパーマンになってしまうと、動かない。今回、モデルで行っている、志津南部圏域。少し聞いたのは、地区社協のほうで相談の場所を貸している。そういうようなかたちでやるために、重要性があるということで、今回、市と市社協の定期的な事務局連絡会議の中で協議し、地域福祉コーディネーターを表に出していくということは意義があると、フォーラムのテーマに設定した。

先ほど、Ｚｏｏｍ形式の開催という話もあったが、今回のフォーラムでは、地域福祉コーディネーターというものを、皆さんに知ってもらうということが１つ。その意味で、大学の先生にも来てもらい、先進的な調布市社協、市社協の話を入れてやっていくということを考えている。

調布市は全ての圏域に地域福祉コーディネーターを置いているが、数年計画、１、２年で簡単に置けたわけではなく、調布市も最初の２年間、モデル事業として配置し、３年目から本格実施となっている。そこからさらに増やしていって、各圏域に置くということは、時間がかかっている（平成２５年度から２人、平成２７年度から２人増員。平成３０年度に２人増員。担当地域変更あり。令和元年度に２人増員され、すべての圏域に配置）。今回、第一歩ということで、フォーラムで、地域福祉コーディネーターを周知、見てくださった方が、こういう人がいて、こういうことをしているというのを切り出す。そこから、継続していかないと、調布市も６年をかけて、全ての圏域に配置しているので、今回の市社協のモデル圏域も１年ではなく、何年かで実績を出して、予算の話も出たが、市としても実績があるということであれば、話が出てくる。まずはやってみて、実績を示すということで、今回、市社協のほうでやってもらえるので、市としても、バックアップではないが、やっていければと思っている。

【委員】

いい教材になることを期待している。

【委員】

今年度から試行設置ということだが、あくまでも今年度から試行設置し、やってみるというところを言っておかないと、もう設置されているのに、何でうちの圏域にはいないのか、という話になってしまう可能性がある。

確認だが、地域福祉コーディネーターは市社協の職員ということか（市社協の職員。職員の役割が大事という発言あり）。

【会長】

４月から。まだ３カ月半弱。

【委員】

ともに歩むふくしプラン４の中に、地域福祉コーディネーターが書かれていて、市の地域福祉計画では扱っていない。２つの計画が近づいていけばいくほど、そこの関係性をはっきりと書き込んでいかないと、一般市民は混乱する。先ほど、事務局からの話にもあった、予算の話。この地域福祉コーディネーターを佐倉市で育てていこう、将来はこれを地域福祉の柱にしていこ

うというように考えられるのであれば、やはり、そのあたりの関係性をしっかりと第５次計画には書き込んでいかないといけないのではないかと、今日の説明を聞いて思った。よろしくお願いする。

【事務局】
　まだ、市全体としての話にはなっていないが、今回の地域福祉フォーラムについては、事務局として今回、このようなかたちで。

【会長】
　時間も限られてきたが、一言ずつお願いしたい。

【委員】
　地域福祉コーディネーター、志津南部圏域にモデルとして３年来るが、今、話を聞いていると、地域福祉コーディネーターへの期待ばかりが来過ぎてしまって、関わっている地域包括支援センターとしては、若干心配。こちらの責任があるなと感じたのが１つ。
　相談機関･アンケート調査結果は、今まで見たことがないが（初めて実施）、やはり専門職として、継続支援の重要性や連携の必要性、結果のとおりで、これをいかに問題整理して、課題に取り組んでいくか、どのように連携していくか、そのあたりが１つのシステムのようになってくると、解決できない場合もあるが、相談者はより円滑に問題が解決、そういう気がした。

【会長】
　この相談機関・アンケート調査結果はよかった。

【委員】
　事務局の言葉ありがたく、重く受け取っている。フォーラムにこのコーディネーターのことを取り上げてもらい、改めて市のほうに感謝申し上げるところ。このフォーラムは是非成功させたいと思っているが、委員におっしゃっていただいた、コーディネーターを佐倉で置くのであれば、より具体的な内容をフォーラムでということで、まさにその通り。立ち上げて設置していくには、１年がかりで内部協議を進めてきた。文字通り、大変な勇気を持って、出発をしたところ。現在は、コーディネーターの役割を大きく３つに分けていて、①地域の活動をサポートするという「地域支援」、②個別の課題を解決に導く「個別支援」、③住民が新たに福祉活動に参加するための「参加支援」、この３つが大きな柱だと思っている。
　この３つごとに、何月何日の何時から何時まで、どの分野、カテゴリーの活動をしたかというのを全て数値的に分析できるように、記録している。そ

れぞれの時間数、１時間で何をやったか、その中でも起承転結がどうなったか、全て測定しているところ。そういうものもフォーラムではいくつか紹介できるのではないかと思っている。

先ほどから出ている調布市の話だが、非常に我々が考えている理想的なかたちを取っている。地域包括支援センターに配置される生活支援コーディネーターと、独自で設置する地域福祉コーディネーターの両方を、市社協が行っている。しかもそれが市の委託事業として、成り立っている。私を含めて、調布市の話は興味があるので、是非、皆さんにもフォーラムを聴いていただいて、佐倉でのあり方について、考えていただきたいと思っている。

断らない相談、総合相談窓口というのは、必要だが、どうしていくか、どう作っていいのか、ずっと研究されている。その中では、１つの手段として、この地域福祉コーディネーターを各所に設置して、まず一義的なワンストップポイント、コーディネーターが全てを解決するわけではないが（できない）、コーディネーターが必要に応じて、各方面につないでいく、つなぎ役ということをメインにしたかたち。これが１つの断らない相談の実現方法の１つになるのではないかと考えての試行設置。そういう観点も踏まえて、効果測定をしていきたいと思っている。成長のプロセスなので、委員からも指摘のように、裏方に徹する役割ではあるが、成長過程では時には前面に出て、あるいは、旗を振ったりしながら、積極的に活動していくので、そういった様子もこのフォーラムでしっかりとお伝えできればと思っている。

【委員】

この地域福祉フォーラムの狙い、効果、事務局が言われたように、知ってもらうと。地域福祉コーディネーターというのはこういうものということを。それにしては、ホームページにＹｏｕＴｕｂｅとして掲載するという程度でいいのかなという気がした。これを絵に描いた餅にしないためには、最初の取っ掛かりも含めて、フォーラムで第一弾として効果を狙うためには、いろいろな方法をもう少し模索してもらいたい。

【会長】

ありがとうございました。地域福祉コーディネーターがスタートということで（大事なこと）、皆さんの期待が大きかったと思うし、私もＺｏｏｍなどで聞ければよかったというのはすごく思ったが、第２弾を期待しながら、まずは地域福祉コーディネーターができたということを知ってもらい、周知ということでお願いしたい。貴重なご意見をいただき、事務局のほうも、それを入れていくのは大変だと思うが、議事録のほうを楽しみにしている。

３．閉　会